

# ろくおん通信

第17号 1988.2.10発行

盲人情報文化センター  
録音製作係

## グループ えくてもあ

先日、悩みの相談「いのちの電話」のボランティアをやっている知人に会った時、「一人について一時間も二時間も、かかることがあるけれど、一寸、気のない受け答えをすると、相談者は感づいて即座に電話を切ってしまう」という話を聞きました。この話は、少なからぬ示唆を与えてくれました。ほんの少しの、おざなりささえも我慢できないということでしょう。これは朗読ボランティアにも、一脉通じることではないかと思ったのです。

さて、「グループえくてもあ」は、NHK文化センター・ボランティアのための朗読講座修了生の集まりです。主として、リクエスト図書家庭録音をしています。活動を現在のような軌道に乗せるまでに、先輩達の苦勞は、並々ならぬものがあったのです。その先導によって、駆出しの私どもは、漸くこの仕事の大変さと、充実感がわかって来たところです。グループの毎月一度の勉強会では、最初、技術的なことから、各処理の仕方などを学び、最近、この道20年というベテランの方を講師にお互いに自分たちのテープを

## 佐久間 かず子

聞いて勉強しています。メンバーそれぞれの読み方や、講師の批評を聞いて、刺激を受けたり反省したりすることで、大変プラスになります。

同様に、リクエスト図書として、家庭録音したテープは、グループの不特定の方に校正していただきますが、この校正で得るところも大きいのです。アクセント（アクセントウしています）の間違いとか、括弧や、耳で聞いて分かりにくい言葉の処理の仕方、ノイズについての敏感さなど、自分ではとんとこれまで気づかなかった点を認識し、テープ図書作りのノウハウを少しずつ会得することができます。



私どもが録音をする場合、常に気をつけるべきは、あくまでも著者と耳で読む人との橋渡し、黒子に徹して自分を表に出してはならぬということでしょう。そのために、主観を入れない読み方は勿論ですが、『レコーディングマニュアル』を、いつも座右に置き、基本的なことについて定められた読み方を逸脱していないかをチェックしています。例えば、図や表の説明をするとき、著者の記した見出しや説明と音声訳者の説明を明確に区別して読み分ける。つまり、先に、図や表の上とか下に添えられている著者の言葉を読み終えてから、改めて「説明」として、音声訳者の説明を入れ、終われば「説明終わり」として次の本文との区別をはっきりさせるなどです。

又、テープ第1巻A面の始めや、B面の始め、最終巻の終わり方の約束事などリクエスト製作図書録音順序を面倒でも、その都度、確認します。思い違いをすることがありますので、これは常に守っています。

\* えくてもあ=仏語で“一寸聞いて”の意味

預かった図書は、完成までに三ヶ月を一応の目安にしていますので、その本を読みたい人の気持ちになって、下調べ、吹き込みなどを毎日の家事の一部に組み込んで努力しています。

誰でも、いつでも調子のいい時ばかりとは限りません。壁にぶつかったり、疑問が出て来たとき、先輩はじめ、誰彼なしに尋ねたり、話し合ったりして、壁を乗り越え、気分転換しては、少しずつ前に進んでいます。

冒頭の話の電話では、すぐ切られることで、まだしもハッと我に返り、反省もできますが、音声訳の場合、一旦テープが相手に渡ってしまえば、出来具合が、どう受けとめられたか、殆ど知るすべがありません。ならば少しでも、客観的に見て、よいテープになるよう、ひたすら努力するしかありません。井の中の蛙にならぬよう常に自分を戒めつつ、今日も「グループえてもあ」は、たゆまぬ努力を続けているのです。

一寸、我田引水になりましたかしら??

## 音訳ボランティアの近畿の状況

～近畿点字図書館研究協議会アンケートから～

■実働ボランティアは減少し、一人あたりの製作量は増加

近畿点字図書館研究協議会（略称＝近点協、会員館30館、内点字図書館14、公共図書館16館）の1986年度実態調査によると、登録ボランティアは毎年増

加を続けていますが、実際に活動している実働ボランティアの数は点字図書館では減少し、公共図書館では登録者も実働数も増えてきています。点字図

書館によっては、実働ボランティアの20パーセント余りといったところもあるようです。職員数が殆ど変わらないのにボランティアが増え続けているのですから、ケアの問題や養成など図書館側で検討しなければなら問題が多くあるようです。

また、一人あたりの年間製作量は、年々増えてきており1984年度と比べて約2倍になってきています。しかし、それでも全国点字図書館の平均と比べると半分余りしかなく引続き製作力のアップは大きな課題となってきています。

### ボランティアについて

	年度	点訳ボランティア		音声訳ボランティア	
		登録	実働	登録	実働
点字図書館	1984年	709	—	866	—
	1985年	820	605	1,050	661
	1986年	947	589	1,172	632
公共図書館	1984年	137	—	212	—
	1985年	187	83	249	44
	1986年	213	175	257	206

※実働とは一年間に一冊以上原本を点訳あるいは音声訳した人

### 一館あたりのボランティア数（実働）

	年度	点訳ボランティア		音声訳ボランティア	
点字図書館	1984年	(全国平均)	48.60	(全国平均)	43.60
	1985年		55.00		55.02
	1986年		53.55		48.62
公共図書館	1984年		—		—
	1985年		16.60		22.00
	1986年		19.44		20.05

## 年間一人当りの製作量

	年度	点訳ボランティア		音声訳ボランティア	
		タイトル	冊	タイトル	巻
点字図書館	全国平均 (1984年)	1.28	5.70	2.50	20.03
	1984年	0.87	3.20	0.95	5.80
	1985年	1.34	3.94	1.33	8.15
	1986年	1.30	4.60	2.11	11.85
公共図書館	1984年	0.38	1.80	0.55	2.80
	1985年	0.63	1.71	0.43	2.08
	1986年	0.23	0.63	0.96	5.07

## ボランティア友の会の意見を聞いて（その4）

### ◎アクセント

…校正表であげられたものはどこまで訂正するのか

…大阪（関西）ものは地の文も関西アクセントではどうか

盲人情報文化センターでは、サービスエリアを全国としています。また、「厚生省委託声の図書」として、全国の70館の点字図書館に年間6,300本の貸出を行なっています。このような事情により、他の地域で聞いた場合も、違和感のないアクセント（共通アクセント）であることを目指しています。

ご指摘の、校正表にあげられたものは…について、校正ボランティアの方には、耳で聞いてどうしても違和感があるもの、アクセントの間違いで共通性があり治せばぐっとよくなるものを指摘して欲しいとお願いをしてありま

す。

次に関西のアクセントを生かしてというご意見ですが、本の中には田辺聖子など関西の作家も多くいます。またその作品の中にも関西言葉がせりふとして多く使われている場合もあります。

このような関西弁のせりふを共通語で読むことはむしろおかしく、せりふは当然関西弁であっていいと思いますが、せりふ以外の部分ではやはり共通語が必要とされます。このような使い分けということでは、すでにお願ひして実際に行なっている事柄です。

最近の校正表より（その6）～あなたもこんな誤りをなさっていませんか～

語句	誤	正
口の端に掛ける	くちのはし…	くちのは…
濃やかな廓情緒	こいやかな…	こまやかな…
経木	きょうもく	きょうぎ
門跡	もんせき	もんぜき
渋滞	ていたい	じゅうたい
高騰	こうしょう	こうとう
一場の夢	いちばのゆめ	いちじょうのゆめ
塔屋	とうおく	とうや
この期に及んで	このきにおよんで	このごにおよんで
下意識	したいしき	かいしき
嗅覚	しゅうかく	きゅうかく
鼻白む	はなしろむ	はなじろむ
幕間	まくま	まくあい
有為転変	ゆういてんぺん	ういてんぺん
言上する	げんじょうする	ごんじょうする
朝貢	ちょうけん	ちょうこう
意を体する	いをていする	いをたいする
落葉松の林	らくようしょう…	からまつ…
常人	じょうにん	じょうじん
奇怪な	かいきな	きっかいな
屋久島(鹿児島県)	おくじま	やくしま
深山	おくやま	しんざん
視界	しや	しかい
永遠に	えいきゅうに	えいえんに
国分尼寺	こくぶんあまでら	こくぶんにじ
無論	もちろん	むろん
一石二鳥	いっこくにちょう	いっせきにちょう

☆第7回月例録音研究会報告

1988年と年を改め第7回録音研究会を1月20日に行ないました。

今回は日本盲人社会福祉施設協議会（以下、日盲社協と略す）で作成された。「録音図書校正基準案」の説明と、検討を行ないました。

編集体制まで取っているのは、盲人情報文化センターだけという、製作体制の違いもあるため部分的に不都合な部分もあり、日盲社協「録音委員会」に意見を送ることにしました。

☆第8回月例録音研究会報告

今回は、近点協のアンケート結果によるボランティア活動の現状報告（P2参照）を行なったのち、図・表・写真の読み方について、マニュアルに沿った読み方の確認をしました。その後、実際に写真や図などの説明の入ったテープを聞きました。

問題点としてあがったことは、図・表などを読まれる場合、いきなり説明して本文と区別できなかったり、原本にある説明文と音声訳者の説明との区別がつかないものがあったことです。読むときは、必ずマニュアルに沿った読み方をしましょう。『レコーディング・マニュアル』の7-3-18(P116)を参照してください。

作品を聞きながら出された意見は、

①図・表などの入った文章で、音声訳者が勝手に分かりにくいだろうと文章中の言葉を置き換えて読むことは原文の変更になるので、どうしても必要なときは、録音図書凡例や音声訳者注であらかじめ断わってから行なう。

②写真を説明したあと、すぐに「説明終わり」と言うイメージする時間がないのでちょっとした「間」を。

③図や表などの説明がかなり長くかかったときは、ただ「説明おわり」と言うのではなく「〇〇の説明おわり」といった方が親切、などでした。

次回も作品を聞きながら処理について勉強していく予定です。

☆3月の月例会のご案内

3月の月例会の日程は次の通りです。

月例音訳技術研究会

3月 9日（水）13:30～15:30

月例録音研究会

3月16日（水）13:00～15:00

「処理について」

休館のお知らせ

3月22日は振替休日、特別休館日になっています。ご注意ください。